

おおきなさめ

奄美市立宇宿小学校 一ねん あたえ あゆむ

あまみのうみにおおきなさめがいました。あおいからだが見えると、みんなにげていくくらいこわがられていました。

でも、さめはいつもひとりぼっちでした。さめがちかづくともみんなにげてしまうからでした。さめはいいました。

「ともだちがほしいな。」

あるひ、おおきなじしんがありました。うみのなかもゆらゆらゆれたり、じめんがわれたりしました。そしてわれたじめんのなかにちいさなおさかなのこどもがはさまってしまいました。

「いたいよう。こわいよう。」

ちいさなおさかなのこどもはなきました。うみのなかまたちはいっしょうけんめいちいさなおさかなをたすけようと思いました。でも、どんなにひっぱってもつちをほってもおさかなのこどもをたすけることはできませんでした。

「そうだ。あのおおきなさめならたすけられるかもしれない。だってすぐくちからもちだもの。」
ふぐのこどもがいました。

「でも、おねがいといったとたんたべられてしまうかもしれないよ。」

あかうるめのこどももいました。みんなこまりました。はやくしないとちいさなおさかなのこどもはしんでしまいます。

「そうだ、こんぶにおてがみをかこう。」

みんなはこんぶにおねがいのおてがみをかきました。おおきなさめがおひるねをしていると、ゆらゆらゆらこんぶがながれてきました。

「ちいさなおさかなのこどもがじめんにはさまりました。さめさんたすけてください。」

さめはびっくりしました。だれかにたのまれごとをされたのは、うまれてはじめてだからです。さめははりきっておよぎだしました。

さめがちかづいてくると、おさかなたちはやつぱりちよつとにげました。とてもこわかったのです。

「やあみんな。ぼくはちいさなおさかなをたすけにきたよ。」

さめはできるだけやさしくいいました。ふぐのこどもはゆうきをだしていいました。

「あそこのじめんのあいだに、ちいさなおさかなのこどもがはさまっているの。さめさん、よろしくおねがいます。」

それをきくと、ほかのおさかなたちもちかづいていました。

「とってもやさしいこなんです。」

「みんななかまなんです。」

「ぼくにまかせて。」

さめはいいました。

さめは、じめんのさけめにはなをさしこむと、おきくしっぽをふってじめんのなかからだをいれはじめました。ぱりぱりぱり。じめんからおとがします。

「がんばれ。がんばれ。」

みんながおうえんします。ぱりぱりぱり。さめはちからをふりしぼってあたまをもっとつっこみました。そのときです。ちいさいおさかなのこどもがいきおいよくとびだしました。

「やった。たすかった。」

みんなはおよろこび。ちいさいおさかなをかこんで、ばんざいをはじめました。そのなかにさめのすがたもありました。さめは、はなのあたまをまっかにしてがんばりました。ちよつとちもでした。でも、ちいさいおさかなをたすけるためにがんばりました。みんなはこうたいこうたい、さめのあかくなつたはなをやさしくなめました。さめはみんなのなかまに

なりました。さめがこわいおさかなはもうひとりいません。さめは、ずっとずっとみんなとなかよくくらししました。